



ごあいさつ

9月7日

みんなの音楽会（ほのみこども園）での栗市長

平成29年10月4日

10月1日に長崎県佐世保市で行われた「第29回住生活月間中央イベントスーパーハウジングフェア」において、本市、つばきの郷にある市営住宅が、国土交通大臣表彰をされました。市営住宅の老朽化に伴い、北西部土地区画整理事業区域内に平成24年に建て替えをしたのですが、単に建て替えということだけでなく、これからの時代を見据えての子育てゾーンということで、保育園・児童館の連携できる施設の整備です。ここは「つばきの郷公園」にも隣接しており、休日になると、この周辺は多くの家族連れでにぎわっています。

5年を経た受賞は、本市の先進的な取り組みに対する思いが、成果として表れたことへの評価をいただいたものと大変うれしく思っております。

9月補正予算のなかで「野々市版コミュニティ・リビング」創出プロジェクトに関する事業費を追加いたしました。これは、「学びの杜のいち カレード」と、本町地区に整備する地域文化交流拠点施設のふたつの拠点を北国街道で結ぶ中央地区整備事業が整った後のソフト事業をこのように銘打ちました。地方創生の「まち・ひと・しごと」の交付金も視野に入れております。地域の絆を図り、そこに住む人たちの喜びや楽しみを見出すため、野々市らしいコミュニティ・リビング、生活の場という身近な感覚で捕らえていただければ、と思っております。

中央地区だけでなく、9月議会では、JR野々市駅周辺のにぎわいについても一般質問をいただきました。JR野々市駅は、来年3月で供用開始50年を迎えます。当時の国鉄は、この地での駅の必要性を考えていなかったのですが、地元の皆さんの「ここには将来、駅が必要になる。つくらなければ」との熱い思いの結集により、『請願駅』として、物心両面からの運動で野々市駅が誕生した経緯があります。

一般的な意識からすれば、当時、田んぼのなかに、線路と駅舎だけしかないようなところで、本当にここに駅が必要なのかという思いのほうが強かったのではないのでしょうか。しかし、地域の皆さんの将来を見据えた思いが募り、それが現在のJR野々市駅周辺の発展につながったともいえます。

今、野々市が進めている市民協働のまちづくりの根本の理念が、50年前にも意識をもって取り組まれていたということ、これはいつまでも野々市の皆さんの記憶にとどめておかなければならない大切なことだと思います。

「学びの杜のいち カレード」の竣工、オープンが迫ってきました。市民の皆さんはもちろんのことですが、市外にお住まいの方々からも、自分たちも利用できるのですね、開館が夜10時までですね、といったことを伺われます。今月の『広報野々市』にもパンフレットを折り込みましたが、開館記念として「米林宏昌展 つながる輪」の展示を大々的に行います。ほかにも米林監督の講演会をはじめ、さまざまなことを企画しています。

単に図書館や市民学習センターを新しくしたというだけでなく、市の内外の皆さんがここに集われ、自分自身を磨き、発信する場となる、他に類をみない施設となること、そして、後の世代にも「あの施設があったからよかった」と、多くの方々から愛されることを願ってやみません。

野々市市や市民の皆さんが、より輝き、絶えず美しく変化するカレードスコープ（万華鏡）、開館は目前です。ご期待ください。